

設ケ、周圍ニモ藁筵等ヲ以テ圍ヲ爲シ、能ク活テ芽ノ生長スルニ從テ、漸々ニ土ト圍トヲ取り除クトキハ、皆能ク活テ繁榮スル者ナリ。

〔駒井日記〕文祿四年四月朔日辰、一京總堀枯竹之事、民法印前田玄以江○民部法爲御届可申遣旨書狀之案、一爲御意令啓達候、仍伏見向島櫻植木之義被仰出候、然者櫻被爲植候刻、木ころびゆがみ候はぬ様にらちを可被爲結之思食候、左候得者木竹過分に入可申體に候、京總廻土居之内に枯竹餘多見申候、逆くさり可申間、右之枯竹被爲取成次第可被仰付と被思召候、土居枯竹之義も少成共青之有之竹を被爲置悉枯逆くさり果候分可被御沙汰と思召候、如何可有之候哉、爲上意申入候、恐惶謹言、

四月朔日

駒井

民法様人々御申

一櫻木之事に付而西美濃之事

一東ハ久瀬川北者赤坂、南ハ亥つゝやをさかひ可付由、右之村數百計有之由、右之内五里四方程も可有之由、次ときたるハ江州近くに候へ共山中故江州江海道無之由、

一伏見御屋敷之儀、土居こわし候事、最前普請衆可申付由御意候通奉行中へ申遣略○中

一伏見向島櫻木之儀ニ付而民法より先刻返事、

一伏見向島櫻植木之かこひとして、京之總廻之土居之枯竹被爲伐旨令存知候、何も境を極、其勝手之所ニハ預々置せられ候間、檢使を出伐せ、運上可申候哉、但以上使可被仰付候哉、御謹次第之旨可預御取成候、恐々謹言、

四月朔日

民部卿法印

駒井中務少輔殿御返報